

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 18 年 12 月 7 日 (2006.12.7)

【公開番号】特開 2001-164797 (P2001-164797A)
 【公開日】平成 13 年 6 月 19 日 (2001.6.19)
 【出願番号】特願 平 11-347306
 【国際特許分類】

E 0 4 H 15/20 (2006.01)

E 0 4 H 15/54 (2006.01)

E 0 4 H 15/64 (2006.01)

【F I】

E 0 4 H 15/20 C

E 0 4 H 15/54

E 0 4 H 15/64

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 10 月 18 日 (2006.10.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】 床布上に空気を供給するための空気供給口を設けた気柱を立設し、前記気柱に天幕を被せるとともに、天幕の端部を前記床布の外周に取付けたテントにおいて、前記気柱に大寸法の空気排出口を形成し、この空気排出口に気密ファスナーを設けたことを特徴とするテント。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

【実施例】

図 1 は本発明によるテントの正面図であり、図 2 は側断面図、図 3 は床布を示す斜視図であるが、これらの図より明らかなように、本発明によるテントは、平面状の床布本体 1 の外周に全周にわたって立設された固定片 1 2 を有する床布 1 の前記固定片 1 2 で画成された部分に気柱 2 を立設している。このような気柱 2 は複数のアーチ状のアーチ状気柱 2 1 とこのアーチ状気柱 2 1 と連通し、かつこのアーチ状気柱 2 1 を相互に接続する複数の梁状気柱 2 2 を有した構造になっており、天幕 3 をこれらの気柱 2 1 および 2 2 に被せるようになっていいる。そして、前記天幕 3 の下端は前記床布 1 の固定片 1 2 にロープなどによって複数箇所脱着自在に取付けられて、張られるようになっていいる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

前記気柱 2 のアーチ状気柱 2 1 に、本発明においては、空気排出口 2 4 が設けられていいる。この空気排出口 2 4 は、この実施例においてはアーチ状気柱 2 1 のそれぞれの側部に

複数形成されている。そして、それぞれの前記空気排出口 2 4 には気密ファスナー 2 5 が設けられており、前記空気排出口 2 4 は開閉自在になっている。このような空気排出口 2 4 は、アーチ状気柱 2 1 および梁状気柱 2 2 のいずれかに設ける場合には、前記アーチ状気柱 2 1 に設けるのが好ましい。もちろん梁状気柱 2 2 にも設けてもよいが、作業者の手が届きにくい。最も好ましくはアーチ状気柱 2 1 および梁状気柱 2 2 の両方に設ける。